

社会の課題へのよりよい解決策を考える子どもが育つ社会科学習

名古屋市立北一社小学校教諭 勝 田 洋 光

I 研究のねらい

急速なグローバル化や多極化の進行に伴い、現在学校で学ぶ子どもたちが社会の中心となって活躍する 2040 年代は、「VUCA」と称される先行きが不透明で予測が困難な未来を迎えようとしている。このような時代に対応するには、様々な変化に積極的に向き合い、直面する課題の解決につながる方策を考えることのできる子どもを育てる必要がある。私の考える「社会の課題へのよりよい解決策を考える子ども」とは、社会の課題に対して、既存の解決策が本当に解決できるかどうかを評価し、課題に関わる様々な立場を踏まえて、幅広い視点で解決につながる方策を考えることができる子どもである。学習指導要領では、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力を養う。」と明記されており、厳しい時代を生き抜くために、課題の解決策を考える力を一層重視している。また、中央教育審議会「次期教育振興計画について（答申）」においても、「現時点で予測される社会の課題や変化に対応して人材を育成する視点と、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出すという視点の双方が必要となる。」と明記されており、従来の課題の解決策を見いだすほかに、予測困難な課題に対しての解決策を考えることのできる力の育成が求められていると考える。

筑波大学教授唐木清志氏は、考えを適切に伝える表現力や思考力は、これから生きる児童生徒にとって必要不可欠な能力であるとし、問題解決的に考える学習を展開する上で重要であると述べている。そこで私は、エドワード・デボノが提唱した思考法に着目した。この思考法は前提を疑い、見方を変えることで、よりよい解決策を見いだす思考法である。

予測が困難な時代を生きる子どもたちにとって、このような思考法を用い、社会の課題に対してよりよい解決策を考えさせることは、問題解決能力の育成という、公民としての資質・能力の基礎を養うという社会科の目標に迫るという点において、意義がある。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立北一社小学校 第6学年 39人

2 基本的な考え

主題に迫るためには、まず、子どもたちが社会の課題を捉え、課題への取組を多様な視点で評価する必要がある。そして、現在の取組を他者との話し合いを通して複数の手順で捉え直し、取組の改善策を見いだす必要がある。そこで、「社会の課題を把握する段階」「社会の課題への取組を追究する段階」「社会の課題の解決策を考える段階」の3段階の学習過程を設定し、社会の課題に対する取組を複数の視点で評価する活動と、取組の改善策を見いだすために話し合う活動を取り入れ、次のように学習を進めることにした【資料1】。

段階	主な学習活動
社会の課題を把握する	① 社会の課題と出会い社会生活への影響を調べる。 ② 社会の課題への取組について予想する。
社会の課題への取組を追究する	③ 社会の課題への現在の取組について調べる。 ④ 現在の取組について「良い」「残念」「興味・関心」と様々な立場への影響についてまとめる。
社会の課題の解決策を考える	⑤ 取組の改善点を見いだす。 ⑥ 複数の手順に従って改善点を克服できる方法を意見交流する。 ⑦ 意見交流を基にして、課題の解決策を考えまとめる。

【資料1】 基本的な学習過程

(1) 社会の課題を捉える段階

社会の課題を象徴する社会的事象と出合わせ、将来を含めた社会生活への影響について調べるようにする。そして、社会の課題に対する現在の取組を予想することで、学習への見通しと追究の視点をもつことができるようにする。

(2) 社会の課題への取組を追究する段階

社会の課題に対する現在の取組を調べるようにする。調べて明らかになった取組の内容を基に、明らかになった取組で本当に課題の解決になるのかどうか、評価する取組を選択し、PMIシートを使った評価を行う。評価は、課題に関わる立場にとってP(良い点)「M(残念な点)」「I(気になること・疑問)」の三つの項目で評価し、現在の取組の改善の可能性について考え、様々な立場を基にした評価を得られるようにする【資料2】。これまでの実践では、調べて明らかになった取組の評価について、三つの項目のうち「I

社会の課題への現在の取組	立場	P(良い点)	M(残念な点)	I(気になること・疑問)
子育て支援アプリ	家庭	・ 緊急の場合の対応を知ることができる。 ・ 子どもの成長記録を管理することができる。 ・ 子育て家庭優待カードを使用できる。	・ 認知度が低い。 ・ 相談窓口の紹介だけで、アプリ内で相談できない。	・ 近くに遊べる施設などがあつたらそれをお知らせできる機能はできないか。 ・ 家庭優待カードを持ち歩かなくてもいい。
	地域	・ 地域の子育て支援の取組を知ってもらうことができる。 ・ 市や企業と連携して子育て支援を行っていくことができる。	・ 連携できるサービスが限定されている。 ・ 地域によって取組内容に差がある。	・ 地域と企業がもっとつながるような場を作れないか。
	行政(市)	・ 子育てへの不安を減らし、出生率を上げることにつながる。 ・ アプリを通じて多くの企業を子育て支援につなげることができる。	・ 利用率が低い。 ・ 使いづらさがある。	・ 子育てが不安な人に市から情報を送ることができる。 ・ なぜ利用率が低いのだろう。

【資料2 PMIシートを使った評価】

(気になること・疑問)」の項目を評価できず、改善点を踏まえた解決策を考えることにつなげられない子どもが見られた。そこで、PMIシートを使って、現在の取組がどの立場にとってどのように評価できるかを検討し合う学習活動(評価会議)を行う。

(3) 社会の課題の解決策を考える段階

社会の課題に対する現在の取組について、学習を通して得たことや、「評価会議」で見いだした改善点などを基に、取組の改善策を考える。その際、思考法「シックスハット法」を取り入れた手順に沿って活動を展開する。シックスハット法では、解決策や意見交流において、肯定的な意見や否定的な意見など様々な考えを同時に述べ、話し合いそのものがまとまらなかったり、まとまるまでに時間が掛かったりするような事態を起こさず、効率的かつ生産的に交流することができる。手順は、色ごとに活動内容を決め、色が指定している活動のみを行って展開する。これまでの実践では、手順を踏まえて考えた改善策が、

未来会議の手順(流れ)

- ① 【調べて分かったこと】
名古屋市が提供しているアプリで、名古屋市の子育て情報や子どもが使える施設を検索できるよ。
- ② 【話し合いの目的】
今回の会議は、子育て支援アプリの改善策について話し合おう！
- ③ 【良い点】
子どもが生まれてからの成長記録や様子を日記のように管理することができるよ。困ったときにどこに連絡すればいいかわかるようになっていね。
- ④ 【残念な点】
アプリを日常的に使っている人は少ないみたいだね。直接相談できるようにはなっていないのが残念だな。
- ⑤ 【改善策】
子育てで困っている人はすぐに解決したいと思うから、アプリの中でAIチャットの形式で相談できるといいね！
- ⑥ 【会議のまとめ】
この改善策は家庭の人にとっての残念な点を改善できているかももう一度確かめてみよう！

【資料3 未来会議】

どの課題の解決につながるのか具体的にになっている子どもが少数にとどまった。手順の中に、改善策を考えるという目的や検討する場全体を俯瞰する機会に欠けていたため、手順そのものを工夫する必要があることが明らかになった。そこで、社会の課題を踏まえた上で、様々な立場の改善点に基づいた改善策を考えることができるようにするために、手順に全体を総括する活動を加え、課題を解決する取組の改善策かどうかを検討する学習活動(未来会議)を行う【資料3】。

3 「子育て支援の願いを実現する政治」「世界の未来と日本の役割」における学習展開

本研究では、小学校6学年単元「子育て支援の願いを実現する政治」「世界の未来と日本の役割」を取り上げ、実践に取り組む。

<p>単元と目標</p>	<p>単元「子育て支援の願いを実現する政治」(7時間) 【実践のねらい】 地方公共団体の政治について、市民の願いを実現する政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算、税金との関わりなどについて調べ、課題に対する現在の取組を捉える。取組の評価によって明らかにした改善点について、現在の取組の改善策を考えることを通して、立場を踏まえた取組の改善策を考えることができるようにする。</p>	<p>単元「世界の未来と日本の役割」(8時間) 【実践のねらい】 世界の諸課題を解決するための日本の役割について、国同士の相互関係や、空間的な関係に着目して各種資料で調べ、まとめることで、世界の諸課題と現在の取組を捉える。取組の評価によって明らかにした改善点について、現在の取組の改善策を考えることを通して、立場を踏まえた取組の改善策を考えることができるようにする。</p>
<p>段階</p>	<p>主な学習活動</p>	
<p>社会の課題を把握する</p>	<p>① 名古屋市の児童施設を取り上げ、子育て支援の課題について調べ、学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習問題】 子育て支援の課題を解決するには、どのような取組をするとよいだろう。</p> </div> <p>② 学習問題に対する予想を話し合い、課題に対する現在の取組を予想し、追究する視点を明らかにし、学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【視点】 支援情報 児童の遊び場 支援サービス 子育て相談</p> </div>	<p>① 世界の諸課題について調べ、学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習問題】 世界の様々な課題を解決するには、日本はどのような取組をするとよいだろう。</p> </div> <p>② 学習問題に対する予想を話し合い、課題に対する現在の取組を予想し、追究する視点を明らかにし、学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【視点】 医療問題 地球環境問題 教育問題 貧困 産業(農業)</p> </div>
<p>社会の課題への取組を追究する</p>	<p>③④ 議会のはたらき、費用の内訳や税金の働きについて調べる。 ⑤ 名古屋市の子育て支援の課題に対する現在の取組について調べ、「PMIシート」を使って三つの項目で評価し、どの立場にとってどのような評価ができるかを検討する学習活動(評価会議)を行う。</p> <p style="text-align: right;">【検証場面1】</p>	<p>③④⑤ 国際連合の特色や国連機関や世界の諸課題に対する日本の取組、NGOやODAの取組について調べる。 ⑥ 世界の諸課題に対する現在の取組について「PMIシート」を使って三つの項目で評価し、どの立場にとってどのような評価ができるかを検討する学習活動(評価会議)を行う。</p> <p style="text-align: right;">【検証場面1】</p>
<p>社会の課題の解決策を考える</p>	<p>⑥ 選択した取組の評価を基にして、「シックスハット法」を取り入れた改善策について検討する学習活動(未来会議)を行う。 ⑦ 検討したことを基に、学習問題の答えとなる改善策を考える。</p> <p style="text-align: right;">【検証場面2】</p>	<p>⑦ 選択した取組の評価を基にして、「シックスハット法」を取り入れた改善策について検討する学習活動(未来会議)を行う。 ⑧ 検討したことを基に、学習問題の答えとなる改善策を考える。</p> <p style="text-align: right;">【検証場面2】</p>

4 質問紙法・記述分析による子どもの実態把握

単元「国の政治の仕組みと選挙」の終末で、「課題を解決するためにどのような取組をしていくとよいだろう」という問いを考える活動を行い、学習した内容を基にまとめさせ、様々な立場にとっての改善点を踏まえた取組を記述できているかどうか調査する。

また、記述の中に出てきた取組のうち、国や県、自分を含む市民の立場に立っているものかを分類し、どれだけの子どもが立場を踏まえた取組の改善策を考えることができているか調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「社会の課題を追究する」段階において、PMI シートを活用した評価会議を行うことは、よりよい解決策を考えることにつながる上で有効か、評価会議後における PMI シートの三つの項目の記述内容からつかむ。
- (2) 「社会の課題の解決策を考える」段階において、現在の取組の改善策を考えるために、未来会議を行うことは、様々な立場の改善点を踏まえた取組の改善策を考える上で有効か、会議後のワークシートの記述内容からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の授業計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究実践単元「子育て支援の願いを実現する政治」 【検証点1】 「社会の課題を追究する」段階において、PMI シートを活用した評価会議を行うことは、よりよい解決策を考えることにつながる上で有効か、評価会議後における PMI シートの三つの項目の記述内容からつかむ。 【検証点2】 「社会の課題の解決策を考える」段階において、現在の取組の改善策を考えるために、未来会議を行うことは、様々な立場の改善点を踏まえた取組の改善策を考える上で有効か、会議後のワークシートの記述内容からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間まとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）研究先進校や先進研究者を訪問し、研究を深める。 ・ 筑波大学教授 唐木 清志氏 ・ 東京学芸大学教授 川崎 誠司氏 ・ 筑波大学附属小学校教諭 粕谷 昌良氏 ・ 一橋大学教授 名和 高司氏 ○ 第2次授業研究の授業計画案を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究単元「世界の未来と日本の役割」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】 【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題を明らかにし、最終まとめを
12	作成する。
1	○ 「社会の課題へのよりよい解決策を考える子どもが育つ社会科学習」について1年間の成果や課題を
2	まとめ、発表する。
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。

参考・引用文献 澤井陽介 唐木清志『小中社会科の授業づくり』 東洋館出版社（2021）